

掘りday はちのへ

—八戸市埋蔵文化財ニュース第 18 号—



約 80 年前の調査坑で、縄文時代前期の貝層を確認しました。白くまばらに見える部分が貝殻や魚などの骨です。

貝塚の位置を特定！ ^{いちおうじ} ~一王寺(1)遺跡~

一王寺(1)遺跡は、八戸市大字^{これかわ}是川にある縄文時代の遺跡で、^{なかい}中居遺跡・^{ほった}堀田遺跡とともに「是川石器時代遺跡」として国の史跡に指定されています。本遺跡では今から約 80 年前に貝塚の発掘調査が行われ、当時の調査記録や貝塚からの出土遺物が残されています。しかし、現在の地表面では貝塚の痕跡は確認できず、詳細な位置は不明となっていました。

平成 26 年度に内容確認調査を行った結果、約 80 年前の発掘調査坑を発見することができました。また昔の調査坑からは、たくさん

の縄文土器と一緒に動物の骨・魚の骨・貝殻、動物の骨や角で作られた道具が出土しました。
(次頁につづく)



動物の角や骨で作られた道具・骨角器

左から、獣骨製の銚頭 (5.6cm)、鹿角製の釣針 (4.5cm)、獣骨製の針 (4.2cm)。

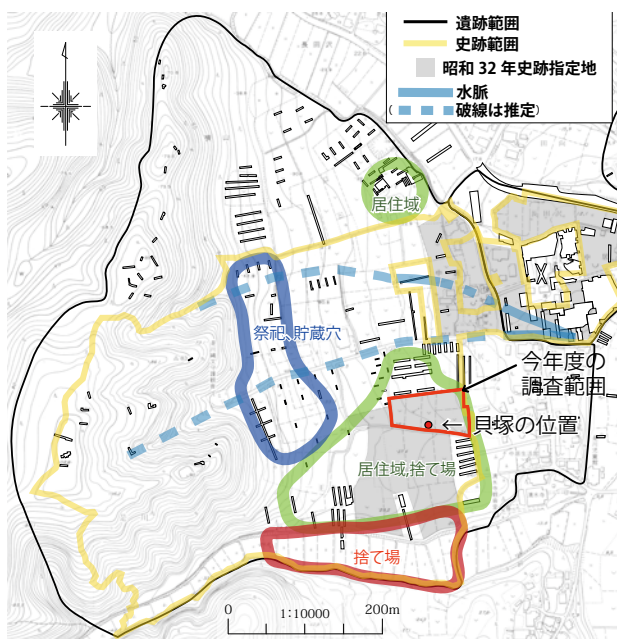


縄文時代の貝塚がある集落～一王寺(1)遺跡～^{いちおうじ}

一王寺(1)遺跡は、八戸市の中心部から南へ約4km、新井田川^{にいだ}の左岸に立地します。遺跡西側は標高約100mの丘陵、東側は新井田川へ向かう標高18～44mの緩斜地となります。総面積は32万6千㎡に及び、縄文時代前期から中期の円筒土器文化期を中心とした大規模な集落です。

発掘調査は「是川縄文の里整備事業」の一環として、史跡を整備・活用するため、遺跡の内容を確認する目的で行っています。26年度の調査地点は遺跡中央から南西寄りの、昭和32年の史跡指定地内に位置します。今回の調査の最大の目標は、かつて貝塚の調査が行われた場所を特定することでした。

本遺跡の貝塚には、戦前に行われた3つの調査記録が残っています。ひとつは大正15(1926)年に行われた、東北帝国大学の長谷部言人・山内清男^{のうちのが お}によるものです。この調査で出土した縄文土器が標識資料のひとつとなり、円筒式土器が設定されたことで有名です。また、貝塚が確認され、調査地点の字名から「中居貝塚」と報告されました。ふたつめの調査は、昭和4(1929)年の大山史前学研究所の宮坂光次・池上啓介^{みやさかこうじ いけがみけいすけ}に



一王寺(1)遺跡の今年度調査地点及び貝塚の位置



平成26年度の調査で発見された2つの旧調査坑
写真上が、大山史前学研究所により調査された調査坑
写真下が、長谷部・山内により調査された調査坑

よるものです。長谷部・山内の調査区近くで発掘が行われています。土層の堆積状況の記録や、出土した獣骨・魚骨・貝類の種類同定など詳細な情報が報告されています。さらに同年に泉山岩次郎・斐次郎兄弟も調査しています。この調査で出土した骨・貝、骨角器などは、泉山コレクションとして残されています。

こうした記録から調査場所を絞り込み、平成26年8月1日から10月31日に発掘調査を行いました。調査の結果、人為的に埋め戻されたとみられる約3×3mの四角い穴を2つ発見しました。この穴から縄文土器や石器のほか、獣骨・魚骨、貝、釣針・鈎頭^{つりぼり もりがしら}などの骨角器が出土し、かつて発掘調査が行われた貝塚の場所が明らかとなりました。2つの穴は、前述の3つの調査記録と照合すると、ひとつが長谷部・山内によるもの、もうひとつが大山史前学研究所によるものと考えられます。

貝塚といえば、貝殻だけがぎっしりと山のように堆積したようすを想像されると思います。しかし、本遺跡は土の中に貝殻や魚骨・獣骨がまばらに混じる貝塚です。一般的な貝塚は海や湖に面しているのに対し、本遺跡は当時の海岸線から離れていたとみられ、内陸に立地する貝塚の特徴をよくあらわしています。(横山 寛剛)

堀がめぐる平安時代の大集落～熊野堂遺跡～

熊野堂遺跡は、八戸市中心部から西に約1km、馬淵川沿いの標高16mの低位段丘上に立地する奈良時代から平安時代の遺跡です。昭和62年（1987）に区画整理に伴う発掘調査により、平安時代の大規模な集落で、集落の一部を堀がめぐる「環濠集落」「防御性集落」といわれる集落であることが明らかになっています。

26年度は、昭和62年の調査地点の東側で、アパート建築に伴い約2,500㎡の発掘調査を実施しました。調査の結果、竪穴住居跡・土坑・溝跡・鍛冶炉などが検出されました。遺構は調査区全体に分布し、集落内で繰り返し住居や土坑が営まれていました。

97棟検出された竪穴住居跡は、ほとんどが平安時代の遺構です。調査区南側では、大規模な溝跡が東西方向にのびていました。昭和62年の調査地点南側でも同じような溝跡がみつかっており、今回の溝跡とつながって集落の北側を囲んでいたと考えられます。溝跡の機能には、区画や防御などが考えられます。

出土遺物では、土師器・須恵器のほか、鉄鍬や鎌・紡錘車といった鉄製の生活用具が出土しました。鉄製品には農具のほか、武器（小札）や馬具（兵庫鎖）、信仰にかかわる道



住居内に作られた鍛冶炉

中央をくぼめて周囲に粘土を土手状に貼りつけています。左上方には羽口を据えた痕跡が残ります。

具（錫杖状鉄製品）も含まれています。竪穴住居跡の中には鍛冶炉がつくられ、鉄の加工によってできる鉄滓や鍛造剥片が出土しました。鍛冶炉や鉄滓の出土から、鉄製の道具類が集落内で生産されていたことがわかります。

多数の遺構や豊かな生活用具から、熊野堂遺跡は馬淵川下流域の拠点的な集落のひとつであったと考えられます。

集落内で多くの施設が繰り返しつくられている状況や、集落の一部を大規模な溝がめぐる様相は、熊野堂遺跡から馬淵川を挟んだ対岸約4kmに位置する林ノ前遺跡でも共通してみられるものです。平安時代の八戸地域における拠点的な集落のあり方や生業を考える上で重要な遺跡といえます。（船場 昌子）



調査区の南側で東西方向に走る大規模な溝跡

幅最大3.6m・深さ2.4mで底は平らにつくられています。

飛鳥～奈良時代の鍛冶～白蛇遺跡～

白蛇遺跡は、八戸市南西部の上野地区に位置する飛鳥～奈良時代の集落跡で、馬淵川を南にのぞむ標高 29～35m の河岸段丘上に立地しています。平成 26 年度の調査では、^{まべち} 竪穴住居跡 8 棟、掘立柱建物跡 2 棟、溝跡 3 条などを検出しました。

今回の調査で注目されるのは、竪穴住居跡で鍛冶に関連する遺物である、ふいごの羽口と鉄滓が出土したことです。ふいごは、鉄を加工する際に高温を維持するため、火に空気を送りこむ道具です。ふいごの先端の火にさしこむ部分は、燃えてしまわないように土で作られます。この部分が羽口です。出土した羽口も、強い熱を受けて変色していました。鍛冶の際に溶け落ちて固まった鉄滓が同時に出土していることから、遺跡の周辺で鍛冶が行われていた可能性が考えられます。

八戸地域の同時期の遺跡では、鍛冶に関連する遺物はほとんど出土していません。八戸における鉄利用の歴史を考える上で重要な発見となりました。 (西村 広経)



竪穴住居跡



ふいごの羽口 長さ 10.2cm

城館の外側に建物跡を発見～^{ね じょうあとおかまえて}根城跡岡前館～

根城跡は、馬淵川沿いの段丘上に位置する、根城南部氏が居城とした東北北部を代表する中世城館で、国の史跡に指定されています。八つの^{くるわ}曲輪で構成されています。26 年度の調査区は、城館の外縁を巡る三番堀の南に位置し、本来は城館の外側にあたります。

発掘調査により、柵列 2 基、掘立柱建物跡 13 棟、竪穴建物跡 3 棟、土坑墓 1 基、土坑 26 基、井戸跡 4 基、溝跡 7 条などの遺構がみつかりました。出土遺物から、これらの遺構群は南部氏が権勢を誇った「城郭期」の 15 世紀代・16 世紀代に帰属すると考えられます。中国産青白^{めい}磁梅瓶・陶器壺や瀬戸産陶器の瓶子・花瓶といった格の高い遺物も出土しました。調査区周辺に関わる記録や伝承は残っていませんが、城館内と

同等の暮らしぶりが推察できます。みつかった遺構群が根城跡の外でどのような性格をもっていたのかは、今後の検討課題となります。

(芋坪 祐樹)



調査区西側（写真右側）でみつかった掘立柱建物跡の柱穴から、15 世紀前葉の陶磁器が出土しました。

特別展「トーテムポールの人びと」

開催期間 8月1日(金)～9月15日(月)

開館から4年目の是川縄文館では、春季企画展「掘り day はちのへ」のほか、以下の特別展・企画展を開催しました。

特別展「トーテムポールの人びと～漁労・狩猟採集民の暮らし～」は北太平洋に広がるサケ・マス文化圏を横軸とし、北米の北西海岸先住民と縄文文化の資料を紹介し、縄文から現代に至る八戸のサケ漁を縦軸として展示紹介しました。北西海岸先住民はトーテムポールの人びととして知られ、不思議で美しい文様や巧みな木工技術をもち、気前の良さを競う“ポトラッチ”という祭宴を行うなど、縄文文化を考える上で古くから注目されています。また今回は、特別展のプレイベントとして北方民族の文化や暮らし、民族学と考古学についての考古学講座を開催しました。

(小久保 拓也)



トーテムポール

北西海岸先住民は、一族におこった特別な出来事を記念してトーテム（祖先と特別な関わりのある動植物や自然現象）をデザインした柱を立てます。旧北海道開拓記念館蔵。高さ3.6m。



魚叩き棒

サケなどの魚の頭を叩く棒。素材は堅い木ですが、丁寧に装飾されていることから、再生儀礼の道具とも考えられます。北海道立北方民族博物館蔵。左の長さ45.5cm。



儀礼用仮面

ワタリガラス形の仮面。北西海岸先住民の神話では善と悪、両方の働きをする存在として登場します。北海道立北方民族博物館蔵。長さ123.8cm。

秋季企画展「海と火山と縄文人」

開催期間 10月11日(土)～11月24日(日)

平成23年から3ヵ年かけて実施した、東京大学大学院新領域創成科学研究科環境史研究室との共同研究「古八戸湾変遷と集落生態系の復原」の成果を展示紹介しました。共同研究では八戸地域の各所で実施した地質調査と、採取した土柱（コア）による年代測定や花粉分析などを行いました。

縄文時代の前半の八戸地域では十和田火山の巨大噴火や、気候変動による海面上昇などの環境の変化がありました。とくに縄文時代早期後半（約8,000年前）には海面上昇がピークに達し、研究上知られる「古八戸湾」のほか、「古奥入瀬湾」と「古新井田湾」があり、かなり海が入りこんでいたことがわかりました。長七谷地貝塚で出土したオオノガイやハマグリは、十和田火山の火山灰が低地に堆積し、その上に海が入り込んだためできた「古奥入瀬湾」の広大な干潟で育まれたものです。縄文人は、環境の変化を利用して生活していたことがわかりました。(小久保 拓也)



共同研究による地質調査

人力・手動のボーリング調査で1回につき直径6cm長さ33cmの土柱（コア）が採取できます。採取したコアをつないで地質柱状図を作り、土の重なり方を明らかにします。



火山灰をさわってみようコーナー

十和田火山の噴火による「八戸火砕流」「二の倉火砕群」「南部軽石」「中振軽石」は八戸地域の遺跡調査においては年代を理解するための鍵となる火山灰です。



類家自然貝層のマガキ

八戸市諏訪の下水道工事中、地下6mから見つかった縄文時代前半の貝殻。八戸の低地は当時、海が入り込んでいました。八戸市博物館蔵。左の長さ32cm。



平成 26 年度是川遺跡出土品保存修理事業

平成 23 年度に重要文化財に追加指定された是川中居遺跡の出土品について、欠損した部分の補修や脆い部分の補強を毎年行っています。平成 26 年度は縄文土器 5 点、石斧の柄・掘り棒各 1 点、木胎漆器 1 点、漆塗りの樹皮製容器 3 点の修理と保存用の台座を作成しました。（横山 寛剛）

<赤色漆塗注口土器>



修理前（口縁部を欠損）

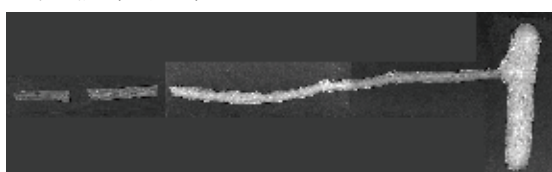


修理中（樹脂で欠損部を成形）



修理完成（復元部が見分けられるよう彩色）

<石斧の柄（木製品）>



① 修理前に X 線写真で遺物の状態を確認



② 修理完成（3つの部品を接合）



③ 遺物の型をとって作った専用の台座です



④ しっかりと固定され、安全な状態で保管できます

是川遺跡の研究者たち ④ ^{すぎやま} ^{すえお} 杉山 壽榮男

昭和 7 年（1932）、是川遺跡の出土遺物をまとめた図録が刊行されました。それは『日本石器時代植物性遺物図録』というもので、東北帝国大学の喜田貞吉と図案家の杉山壽榮男により編集されたものです。この図録の図面は杉山が描いたもので、特に漆製品などは、カラーで写真のように正確に描かれています。

彼は、明治 18 年（1885）東京で生まれ、東京高等工業学校（現在東京工業大学）の工業図案科に入学し、在学中に東京帝室博物館の高橋健自と知り合い、考古学に興味を持ったものと思われています。昭和 2 年（1927）春、泉山岩次郎より中居から木製品が出土したことを知らされ、実際に泉山宅を訪れ、その時写生した資料を『人類学雑誌』に紹介しています。それがきっかけとなり、その後の発掘調査に

も参加するようになり、次第に是川遺跡に関心を持つようになりました。昭和 5 年（1930）には、八戸郷土研究会発行の『青森県是川村石器時代遺物絵葉書』に解説を書き、昭和 7 年の『是川遺蹟』記念碑建立に際し、大阪毎日新聞社の本山彦一から寄付を頂いてきます。また、図録作成にあたっては、泉山からかなりの信頼を受けていたのか、遺物を東京まで借り受け、修理・写真撮影・実測を行っています。

その後は、以前から興味を持っていたアイヌ工芸を主に研究対象としています。彼は当時の人類学者や考古学者とは違い、原始工芸文様の研究者であり、是川遺跡の遺物を世間に広めた人物です。（村木 淳）

平成 26 年度八戸市遺跡調査報告会

平成 26 年 11 月 15 日に、八戸市内の遺跡発掘調査の主な成果を発表する遺跡調査報告会を開催しました。今回は、80 名の参加がありました。報告会では、飛鳥～奈良時代の白蛇遺跡（上野地区）、奈良～平安時代の田面木遺跡（田面木地区）、熊野堂遺跡（長根地区）、約 80 年ぶりに調査が行われた縄文時代の一王寺(1) 遺跡の調査成果の報告を行いました。

遺物展示会場では、一王寺(1) 遺跡の貝層断面の剥ぎ取りや、熊野堂遺跡の平安時代の竪穴住居跡から出土したほぼ全身の馬の骨な

どを展示しました。

遺跡調査報告会の資料は、是川縄文館のホームページに掲載していますので、是非ご覧ください。（田中 美穂）



遺物展示会場のようす

一年間を振り返って

4 月から 12 月は毎日元気に発掘調査に出掛け、1 月から 3 月は館内にこもって発掘調査報告書の作成に従事しました。わからないことやできないことばかりで、屋外でも室内でも上司や先輩方に厚いご指導を頂き、とても有意義な毎日を送ることができました。

私は階上町の出身で、地元の歴史を学ぶ仕事は実に楽しく幸せだと感じております。しかし、この一年間を通して、その責任と難しさを日増しに考えるようになりました。市民の方がたに八戸の歴史の貴さや面白さを伝えられるよう、これからも日々考え、いつか実践できるよう精進していきたいと思えます。

（苧坪 祐樹）



熊野堂遺跡発掘調査現場にて 馬の骨を取り上げる筆者

八戸から直線距離で 1,200km ほど離れた山口県で生まれ育った私にとって、八戸との縁は縄文文化を研究しているということだけでした。慣れない気候、慣れない言葉、様々な壁にぶつかりながらも、経験豊富な先輩方、優しい現場の作業員の皆様に支えられ、なんとか一年間を過ごすことができました。どこの現場に行っても、初めて見るものや、初めて知ることばかりで、とても勉強になりました。とりわけ、一王寺(1) 遺跡の調査を担当させていただいたことはかけがえのない経験です。

八戸には貴重な文化財がたくさんあります。そのすばらしさを、少しでも多くみなさんにお伝えできるよう邁進して参ります。（西村 広経）



一王寺(1) 遺跡発掘調査現場にて 写真左側が筆者



平成 26 年度 八戸市内発掘調査一覧

遺跡名	調査	調査原因	調査期間	調査面積(㎡)	主な時代
山内遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	H26.4.7～4.8	15.0	縄文・平安・散布地
田面木遺跡①	試掘調査	太陽光発電設備	H26.4.9	8.0	平安・集落跡
帽子屋敷遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H26.4.11	24.5	縄文・貝塚
松ヶ崎遺跡①	試掘調査	太陽光発電設備	H26.4.14～4.16	102.0	縄文・集落跡
市子林遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	H26.4.17	0.75	縄文・古墳～近世・集落跡
田面木遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	H26.4.17	21.0	平安・集落跡
八戸城跡第 32 地点	試掘調査	個人住宅建築	H26.4.17	30.0	近世・城館
八戸城跡第 33 地点	試掘調査	個人住宅建築	H26.4.17	30.0	近世・城館
八戸城跡①	試掘調査	個人住宅建築	H26.4.18	29.0	近世・城館
八戸城跡②	試掘調査	店舗兼住宅建築	H26.4.21・H27.1.27	20.0	近世・城館
松ヶ崎遺跡第 18 地点	試掘調査	道路改良工事	H26.4.25・4.28	43.0	縄文・集落跡
山内遺跡第 4 地点	試掘調査	宅地造成	H26.5.7～5.14	359.0	縄文・平安・散布地
新井田古館遺跡第 30 地点	試掘調査	太陽光発電設備	H26.5.9～5.14.6.25	132.5	中世・城館
松ヶ崎遺跡第 19 地点	試掘調査	事務所建設	H26.5.15	14.5	縄文・集落跡
市子林遺跡第 20 地点	試掘調査	宅地造成	H26.5.16	61.0	縄文・古墳～近世・集落跡
石橋遺跡	試掘調査	宅地造成	H26.5.19～5.20.6.30	112.5	平安・集落跡
田面木遺跡隣接地	試掘調査	太陽光発電設備	H26.5.20～5.23	240.0	縄文・弥生・奈良・平安・集落跡
新田遺跡	試掘調査	太陽光発電設備	H26.5.23～5.26	84.0	縄文・奈良・平安
咽平遺跡①	試掘調査	太陽光発電設備	H26.5.26～5.29	240.0	縄文・奈良・平安・散布地
根城跡岡前館第 60 地点	試掘調査	範囲内容確認	H26.6.3～6.5	214.0	中世・城館
直渡(3)遺跡	試掘調査	太陽光発電設備	H26.6.11～6.19	149.0	平安・散布地
中居林遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H26.6.16	10.0	縄文・弥生・平安・集落跡
山内遺跡第 5 地点	試掘調査	宅地造成	H26.6.16～6.30	507.0	縄文・平安・散布地
山内遺跡②	試掘調査	宅地造成	H26.6.16～6.30	230.0	縄文・平安・散布地
稲荷後(3)遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H26.6.23	16.5	縄文・散布地
泉沢(1)遺跡	試掘調査	道路改良工事	H26.6.26	33.0	平安・散布地
咽平遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	H26.6.25	14.0	縄文・奈良・平安・散布地
浜道通遺跡	試掘調査	配水管改良工事	H26.8.4～8.5	11.2	縄文・散布地
一日市遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H26.7.31	4.0	平安・散布地
櫛引遺跡	試掘調査	道路改良工事	H26.8.11・8.19	28.8	縄文・奈良・平安・中近世・城館跡・集落跡
八幡遺跡第 7 地点	試掘調査	公民館建設	H26.9.30～10.1	102.0	縄文・弥生・奈良・平安・近世・集落跡
千石屋敷遺跡第 8 地点	工事立会	上水道管設置	H26.10.22・12.3～4	85.0	中世
市子林遺跡②	試掘調査	倉庫建設	H26.11.4	4.5	縄文・集落跡
前川目遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H26.11.5	5.0	縄文・散布地
松ヶ崎遺跡②	試掘調査	道路改良工事	H26.11.17～18	37.5	縄文・集落跡
重地遺跡第 6 地点	試掘調査	長芋・牛蒡作付け	H26.12.3～4	170.0	縄文・集落跡
雷遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H26.12.9～10	18.0	縄文・平安・散布地
館平遺跡第 28 地点	試掘調査	児童館擁壁設置	H26.12.26.H27.1.6	14.0	縄文・平安・中世・集落・城館
八戸城跡	試掘調査	店舗兼住宅建築	H27.1.27	5.0	近世・城館
咽平遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H27.3.17	10.0	縄文・奈良・平安・散布地
根城跡岡前館第 59 地点	確認調査	個人住宅建築	H26.4.17～4.30	67.0	中世・城館
根城跡岡前館第 61 地点	確認調査	倉庫建設	H26.10.29～11.5	155.0	中世・城館
根城跡岡前館第 62 地点	確認調査	太陽光発電設備	H26.11.7～11.28	655.0	中世・城館
一王寺(1)遺跡	確認調査	遺跡内容確認	H26.8.1～10.30	600.0	縄文・集落跡
田面木遺跡第 43 地点	本調査	長芋・牛蒡作付け	H26.7.28～9.30	1100.0	平安・集落跡
松ヶ崎遺跡	本調査	道路改良工事	H26.6.2～6.6	1050.0	縄文・集落跡
白蛇遺跡	本調査	寺院建築	H26.5.8～7.31	4800.0	縄文・奈良・平安・散布地
根城跡岡前館第 60 地点	本調査	宅地造成	H26.10.22～12.13	1271.0	中世・城館
熊野堂遺跡第 2 地点	本調査	アパート建築	H26.7.1～10.31	2554.0	縄文・奈良・平安・集落跡

《調査事務局》(平成 26 年度)

八戸市教育委員会

教育長 伊藤 博章

教育部長 佐藤 浩志

教育部次長 澤田 多嘉男

是川縄文館長 古舘 光治

副館長 前田 美智子

《埋蔵文化財グループ》

埋蔵文化財 GL 村木 淳

主査兼学芸員兼社会教育課主査兼学芸員

杉山 陽亮

主査兼学芸員 船場 昌子

主事兼学芸員 横山 寛剛

主事兼学芸員 田中 美穂

主事兼学芸員 苧坪 祐樹

主事兼学芸員 西村 広経

《縄文の里整備推進グループ》

縄文の里整備推進 GL 宇部 則保

副参事 大野 亨

主幹 磯島 康総

主幹 山野下 貴信

主査 津久家 崇博

主査兼学芸員 小久保 拓也

主事兼学芸員 市川 健夫

非常勤主事 三浦 賢子

非常勤主事 武山 美郷

非常勤主事 菅澤 早希子

市内遺跡発掘調査事業

受託事業



《平成 26 年度刊行》

八戸市埋蔵文化財調査報告書

第 149 集 八戸市内遺跡 32

第 150 集 白蛇遺跡

第 151 集 史跡根城跡XIV

掘りday はちのへ 第 18 号

発行年月日 2015 年 6 月 12 日

編集・発行 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

〒031-0023

青森県八戸市大字是川字横山 1

TEL 0178(38)9511

E-mail jomon@city.hachinohe.aomori.jp

http://www.korekawa-jomon.jp

(是川縄文館ホームページ)

印刷 大東印刷株式会社

印刷部数: 1,000 部 印刷経費: 一部あたり 97.2 円

